

ミュージアム県 ながさき

06 History and Culture of Nagasaki
2017 Spring



JAPAN HERITAGE

日本遺産

【特集①】
— 日本遺産 —
佐世保
鎮守府

【特集②】
— 日本遺産 —

日本磁器のふるさと 肥前

ミュージアムの人々
逸品紹介
自慢の体験プログラム
建物探訪
ながさき歴史・文化トピックス



長崎県

ミュージアム県ながさき 06

平成29年(2017)3月発行 ©長崎県文化振興課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL.095-895-2762 FAX.095-829-2336 <http://nagasaki-bunkanet.jp>

Information



長崎県美術館

〒850-0862 長崎市出島町2-1
☎ 095-833-2110
🕒 10:00~20:00(展示室への最終入場は30分前まで)
📅 第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
🌐 <http://www.nagasaki-musem.jp/>

@nagasaki_museum



長崎歴史文化博物館

〒850-0007 長崎市立山1-1-1
☎ 095-818-8366
🕒 8:30~19:00(12~3月は、8:30~18:00)等
📅 第3月曜日(祝日の場合は翌日) ※その他メンテナンスのため休館する場合があります
🌐 <http://www.nmhc.jp/>

@ngs_rekibun <http://www.facebook.com/rekibun/>



壱岐市立一支国博物館

〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515番地1
☎ 0920-45-2731
🕒 8:45~17:30(最終入館は30分前まで)
📅 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
※GWおよび夏休み期間中は無休 ※12月29日~31日休館
🌐 <http://www.iki-haku.jp/>



長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム

〒850-0921 長崎市松が枝町4-27
☎ 095-827-8746
🕒 9:00~17:00(最終入館20分前まで)
📅 第3月曜日(祝日の場合は翌日)
🌐 <http://www.nmhc.jp/museum/>

究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業

長崎を学ぶウェブサイト

長崎県歴史・文化ポータルサイト ながさき歴史・文化ネット

長崎県内のミュージアム(美術館、博物館、動植物園、水族館など)・文化ホールを施設分類やエリア、分野で検索する事ができ、各施設の基本情報のほか、展覧会や講演会などのイベント情報も見ることが出来ます。県内ミュージアムの見学やイベントをお調べの際にご活用ください。あわせて、各施設の専門家などによるコラム(月に1度更新)や、本情報誌など読み物もたくさん掲出しています。



表紙画像: 針尾送信所/三川内の磁器製作技術(透かし彫り)大川裕弘撮影/波佐見焼 コンブラ瓶、染付格子編蝠文碗(波佐見町教育委員会蔵)
究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業 ミュージアム県ながさき vol.6
©平成29年(2017)3月発行 ©企画・発行:長崎県文化観光国際部文化振興課
©執筆:岡林隆敏氏、川瀬雄一氏、長崎県文化振興課(齋藤義朗、佐野実、橋本正信、伊藤晴子、加藤敬久、根ヶ山耕司、百田成玉、伊東猛)
©デザイン:株式会社ピーエス・クリエイティブ

無料アプリ ながさきミュージアム



長崎県文化振興課の公式アプリケーション。長崎県内のミュージアムや文化施設を完全網羅し、開催中のイベント情報や施設情報を確認できます。また、最旬のイベント情報をプッシュ通知でお知らせします。

App StoreまたはGoogle playで

旅する長崎学 TABINAGA

長崎県の歴史・文化をわかりやすく楽しく学び、歴史の旅に出かけたくなるような「歴史の旅と游学サイト」。「長崎Web学会」など最新の情報を随時掲載。



長崎県には、歴史、民俗、美術、自然科学、産業などをテーマとした特色あるミュージアムが各地に数多くあります。本県では、これらのミュージアムを地域の大いなる資源として、より魅力ある地域づくりの「てこ」とするため、各施設の活性化と施設間の連携を進めていく事業を推進してまいりました。本情報誌は、この事業の一環として県内所在のミュージアム各館の魅力と取り組みを、さまざまな角度から皆様にご紹介することを目的とし平成25年(2013)2月に創刊しました。そして、昨年度刊行の5号からは、本県の特徴ある歴史や文化の掘り下げや発信事業と一体化し「究める・つなげる『長崎の歴史』魅力発信事業」としてリニューアルいたしました。本情報誌を、ポータルサイト「ながさき歴史・文化ネット」(<http://nagasaki-bunkanet.jp>)とあわせて、県民の皆様をはじめ、県外から観光等でお越しになられる皆様に気軽に「利用いただけましたら幸いです」。

平成29年(2017)3月 長崎県文化観光国際部文化振興課

鎮守府

横須賀・呉・佐世保・舞鶴

「日本近代化の躍動を体感できるまち」

平成28年4月、佐世保をはじめとする旧軍港4市の連名で申請した鎮守府関連のストーリーが「日本遺産」に認定されました。



目次

| | |
|----|------------------------------------|
| 1 | 特集① |
| 2 | 日本遺産 鎮守府 |
| 3 | 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 |
| 4 | 「日本近代化の躍動を体感できるまち」 |
| 5 | 佐世保鎮守府 |
| 6 | 寄稿「旧佐世保鎮守府で発展した最先端の巨大コンクリート構造物」 |
| 7 | 長崎大学名誉教授 岡林隆敏氏 |
| 8 | 立神保船池(旧修理艦船繋留場)と佐世保重工業(株)250トンクレーン |
| 9 | 佐世保市民文化ホール(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館) |
| 10 | インタビュー「俵ヶ浦トレイル」 |
| 11 | 佐世保市俵ヶ浦町公民館館長 湯浅修さん |
| 12 | 九州旅客鉄道(株)鉄道施設群 |
| 13 | 松浦鉄道(株)鉄道施設群 |
| 14 | 佐世保鎮守府にゆかりある食文化 |
| 15 | 海上自衛隊佐世保史料館(セイルタワー) |
| 16 | 佐世保市立図書館郷土資料室 |
| 17 | 日本遺産 日本磁器のふるさと 肥前 |
| 18 | 特集② |
| 19 | 連載 |
| 20 | ミュージアムの人々① |
| 21 | 波佐見町教育委員会 中野雄二さん |
| 22 | ミュージアムの人々② |
| 23 | 佐世保市少年科学館 久野正明さん |
| 24 | ミュージアム逸品紹介 |
| 25 | 諫早市美術 歴史館 副館長 川瀬雄一氏 |
| 26 | 自慢の体験プログラム 長崎ペンギン水族館 |
| 27 | 建物探訪 西望公園・記念館 |
| 28 | ながさき歴史・文化トビックス |

ストーリー概要

明治期の日本は、近代国家として西列強に渡り合うための海防力を備えることが急務でした。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を4つ(横須賀、呉、佐世保、舞鶴)選り軍港を築きました。静かな農漁村に人と先端技術が集まり、

海軍諸機関と共に水道や鉄道などのインフラも急速に整備され、日本の近代化を推し進めた4つの軍港都市が誕生しました。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくもたくましく、今も訪れる人々を惹きつけます。

「鎮守府」関連年表

| | |
|----------------|---|
| 明治 9年(1876) 9月 | 東海鎮守府を横浜に設置 |
| 明治17年(1884) | 東海鎮守府、横浜から横須賀に移転 横須賀鎮守府 と改称 |
| 明治22年(1889) | 呉鎮守府・佐世保鎮守府 開庁 |
| 明治34年(1901) | 舞鶴鎮守府 開庁 (大正12[1923]~昭和14[1939]は要港部) |
| 昭和20年(1945) | 敗戦に伴い、鎮守府解体 |



「Q: 日本遺産 (Japan Heritage) とは」

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定するものです。平成27年度に18件、平成28年度には19件が認定されました。

「Q: 鎮守府とは」

日本海軍の根拠地となる軍港(横須賀・呉・佐世保・舞鶴)に置かれた拠点(機関)。日本海軍では、全国を4つの海軍区に分け、各区で沿岸の防御・警備、所属艦船の補給や出動準備、兵員の募集や訓練、所属部隊の指揮などを行い、これを各鎮守府司令長官が統括しました。

佐世保 鎮守府



佐世保は、明治19年(1886)に鎮守府設置が決定し、軍港が置かれ、明治22年(1889)、佐世保鎮守府が開庁しました。政府は巨額の予算を投じ、当時の最先端技術をもって鎮守府の建設を行いました。これにより、鎮守府設置決定時の明治19年(1886)には4111人だった人口は、鎮守府開庁からわずか13年後の明治35年(1902)には5万人に達するなど、佐世保は驚異的な速度で近代的な軍港都市へと変貌を遂げました。

昭和20年(1945)の敗戦によって佐世保鎮守府は解体されましたが、鎮守府建設に伴って整

備された造船所などの施設群、鉄道、道路や水道施設などのインフラは、その多くが100年以上を経過した今なお現役です。

平成28年4月に日本遺産に認定された「鎮守府」ストーリーのなかで、佐世保鎮守府にかかわる構成文化財は、27件、502資産にものぼり、佐世保のいたるところでストーリーを物語る文化財と出会うことができます。



旧佐世保鎮守府で発展した 最先端の巨大コンクリート構造物

長崎大学名誉教授 岡林隆敏氏

旧佐世保鎮守府にある近代化遺産の特徴は、明治中期から後期にかけての膨大な数の煉瓦構造物が残されていることです。さらに重要な特徴として、巨大な海軍施設が建設されたことがあります。佐世保鎮守府では、数々のコンクリート技術が開発され、その技術を使った、最先端の海洋構造物、地下構造物、高層構造物が現在でも残されています。

鎮守府が開庁し、造船部門に第1ドックが明治27年(1894)起工しましたが、竣工式に水漏れで崩壊し、大問題に発展しました。北海道農学校を卒業した真島健三郎は直ちに海軍に入り、セメントに火山

灰を混入させる耐海水コンクリートを開発し、第1ドックの建設を成功させ、海洋構造物のコンクリート施工法を確立しました(写真①)。

日露戦争後 明治期日本海軍の最大の工事と云われる吉村長策設計による立神係船池が大正5年(1916)完成します。入水式の

写真②に写されている岸壁上の人物から、係船池の巨大さが分ります。その中央部分に、大正2年(1913)日本で最大の250トンジャイアントクレーン(写真③)が設置されます。次に目指した

地下構造物の技術は、鉄製が常識であった石油タンクを明治45年(1912)に日本で最初に鉄筋コンクリート製地下タンクに変え、さらに無筋の地下タンクに進化させました。さらに、超高層コンクリート構造物に挑戦した吉田直は、針尾無線送信所を完成させました。鉄筋コンクリート造の無線塔(写真④)の

写真②に写されている

岸壁上の人物から、係船池の巨大さが分ります。その中央部分に、大正2年(1913)日本で最大の250トンジャイアントクレーン(写真③)

が設置されます。次に目指した地下構造物の技術は、鉄製が常識であった石油タンクを明治45年(1912)に日本で最初に鉄筋コンクリート製地下タンクに変え、さらに無筋の地下タンクに進化させました。さらに、超高層コンクリート構造物に挑戦した吉田直は、針尾無線送信所を完成させました。鉄筋コンクリート造の無線塔(写真④)の

の発展をします。第2回拡張事業の明治41年(1908)に完成した山ノ田水道施設(写真⑤)では、今でも高さ24.5メートル、長さ310メートルの巨大な水道ダム(土堰堤)が聳えています。社会基盤を維持管理する現代において、老朽化することなく稼働している、当時の最先端の技術の真髄を今でも見ることができます。



写真③ 250トンクレーン(登録文化財)



写真⑤ 山ノ田水道施設(選奨土木遺産)



写真④ 針尾無線送信所(重要文化財)



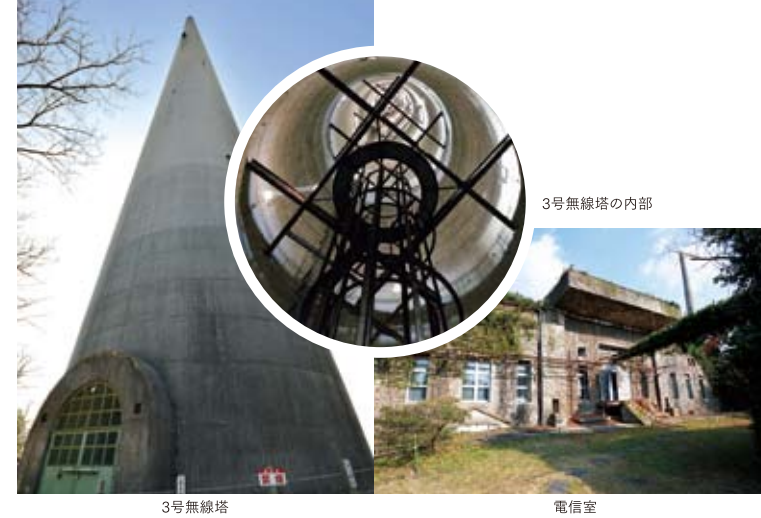
写真① 第1船渠(現第5ドック)

写真② 修理艦船係船場(立神係船池)入水式

Sasebo

旧佐世保無線電信所 (針尾送信所)施設

- 〒 佐世保市針尾中町382
- ☎ 0956-58-2718(針尾無線塔保存会)
- 🕒 9:00~12:00/13:00~16:00
- ※団体(20名以上)での見学は事前の電話連絡が必要
- 📅 年末年始(12/29~1/3)



3号無線塔

電信室

大正7年(1918)から大正11年(1922)にかけて日本海軍によって建設された長波通信施設。日露戦争の経験から遠距離無線通信の重要性が認識され、船橋無線電信所(千葉県)、鳳山無線電信所(台湾)と共に整備されました。針尾送信所は、中国大陸、東南アジア、南太平洋方面に展開する海軍部隊との通信に使用されていました。

高さ136メートルを誇る3基の無線塔は鉄筋コンクリート造。約300メートル間隔で正三角形に並んでおり、その中心に無線電信所電信室があります。わが国で現存する唯一の長波通信施設で、塔の基底部の直径は約12メートル、厚さは最大76・2センチもあり、大正時代の日本における鉄筋コンクリート技術の到達点と言える存在です。平成25年(2013)3月には国の重要文化財に指定されました。



あわせて見ておきたい!



浦頭引揚記念平和公園・資料館

- 〒 佐世保市針尾北町824番地
- ☎ 0956-58-2561
- 🕒 9:00~18:00(11~3月は17:00まで)
- 📅 年末年始(12/30~1/3)

太平洋戦争の終結に伴い、外地からは引揚船で多くの人々が帰国しました。佐世保の浦頭には昭和25年(1950)4月までに約140万人が上陸しています。資料館は平成29年1月18日リニューアルオープンし、引揚者の壮絶な体験を示す実物資料や証言映像を展示しています。



無窮洞 (旧宮村国民学校地下教室)

- 〒 佐世保市城間町
- ☎ 0956-59-2003(無窮洞頭影保存会)
- 🕒 9:00~17:00
- 📅 年末年始(12/29~1/3)

太平洋戦争中、当時の宮村国民学校の生徒たちが教員の指導で掘った防空壕。全校生徒600人が避難できるほど巨大で、昭和18年(1943)から昭和20年(1945)8月15日の終戦の日まで掘り続けられました。



立神係船池(旧修理艦船繋留場)

立神係船池と 佐世保重工(株) 250トンクレーン



佐世保重工業(株)第5ドック(旧佐世保鎮守府造船部第一船渠)



250トンクレーン全景 (佐世保市教育委員会提供)

日露戦争中、損傷した海軍の艦船を修理・整備する施設(ドック)が佐世保に求められました。立神係船池は、そうした修理・整備をうける艦船を二時的に係留しておくことを主な目的として建設されたものです。

工事は明治38年(1905)に始まりました。立神岬と大蛇島、小蛇島を

堤防でつなぎ、海水のくみ出しと海底の掘り下げを行い、明治44年(1911)から岸壁の整備が始まりました。その高さは10メートル以上。日本

のコンクリート工事の先駆者として有名な真島健三郎(1873~1941)が考案した、火山灰を混ぜた防水性の高いコンクリートが用いら

れました。その後再び海水を注ぎいれ、工事をはじめてからおよそ11年後の大正5年(1916)、立神係船池

は完成しました。完成した係船池の大きさは、南北に約576メートル、東西に約364メートル。"明治時代における海軍最大の土木工事"と言われています。

(旧第一船渠)は、その中でもっとも古い明治28年(1895)に完成したものです。長さ141・4メートル(戦

後に33メートル延長)、幅30・3メートル、深さ11・8メートル。このドック建造に際し真島技師が考案した耐海水コンクリートは、以後のコンクリート技術発展に大きく貢献しました。

ランドマークである250トンクレーンは、スコットランドのサー・ウィリアム・アロール社製で、係船池の完成に先立つこと3年、大正2年(1913)10月に設置されました。日本には3台、世界には10台しか残っていません。佐世保海軍工廠時代に設置されたドック群も現役で、当時のものを改造しながら使っています。第5ドック

「俵ヶ浦トレイル」がつくられています。

と九十九島の景色などを楽しめる
保市でも俵ヶ浦町に明治の要塞遺構
整備されてきています。長崎県佐世
文化に触れるトレイルコースが全国に
した道を歩いて地元の風景や歴史、
落などを結ぶ歩道のこと。近年、こ

九十九島の
絶景も
楽しめますよ



佐世保市俵ヶ浦町公民館館長 湯浅修さん

トレイルとは、森林や里山、海岸、集
落などを結ぶ歩道のこと。近年、こ
した道を歩いて地元の風景や歴史、
文化に触れるトレイルコースが全国に
整備されてきています。長崎県佐世
保市でも俵ヶ浦町に明治の要塞遺構
と九十九島の景色などを楽しめる
「俵ヶ浦トレイル」がつくられています。

によると「母親の話では、28センチの
榴弾砲を撃ったら、小学校の校庭が
揺れていたと聞きました。要塞跡を
見ると、明治期、国防というものに

インタビュー「俵ヶ浦トレイル」



トレイルルート
バスルート
0 500m

佐世保港の
入口にあたる
俵ヶ浦半島は、
明治時代、軍港
となった佐世保
を防御する要塞が築
かれたところ。トレイル
の目玉になっているの
が全国的にも珍しい
円形の鋼鉄製装甲掩
蓋が残る丸出山観測
所跡です。俵ヶ浦町公
民館長の湯浅修さん

かに真剣に取り組んでいたのかよく
わかりますよ」とのこと。

整備のきっかけは「珍しいものが
俵ヶ浦にある」というインターネットの
ブログ記事だったそうです。

「地元の人も知らなかったという場
所を徐々に整備しはじめ、平成23年
には九州大学景観研究室(樋口明彦

准教授)の提案で、『トレイルという形
で開発しよう』ということになりま

もと、住民有志や海上自衛隊OBな
ども参加して除草や樹木伐採を行
い、2トン車で何台分もの大がかりな
作業の末、トレイルコースとして生ま
れ変わりました。今では小学校の子
供たちも老人会と一緒に何回も来て

いますよ。」(湯浅さん談)

丸出山観測所跡からは、九十九島
の絶景も楽しむことができます。コー
スはウォーキングで2時間ちよつと。自
家用車で訪れる場合には、白浜海水
浴場の駐車場が利用できます。軍港
佐世保の歴史と豊かな風景を巡る旅
に出かけてみませんか。

《キーワード解説》

「佐世保要塞」とは
明治19年(1886)、軍港設置令で佐世保に軍港が置かれると、「海岸防御」が急務とされ、明治30
～34年(1897～1901)、陸軍によって俵ヶ浦をはじめ牽牛崎(佐世保市日野町)、石原岳(西海市)
などに堡壘・砲台を整備。明治33年(1900)には佐世保要塞司令部が設置されました。実際の戦
闘はなく、昭和10年代にほとんどが廃止されました。

「丸出山観測所(丸出山堡壘)」
起工: 明治31年(1898)11月/竣工: 明治34年(1901)11月/昭和12年(1937)2月一部除籍
装備: 28センチ榴弾砲×4門
24センチカノン砲×4門(→昭和12年(1937)、除籍)

「小首砲台(小首堡壘)」
起工: 明治31年(1898)6月/竣工: 明治33年(1901)9月/廃止: 昭和17年(1942)2月
装備: 24センチカノン砲×4門(→昭和12年(1937)、除籍)
15センチカノン砲×2門(→昭和17年(1942)、撤去)

※注[サンチ]と[センチ]
明治時代には「cm」をフランス語読みの「サンチ(冊)」と表記していましたが、1924年以降は英語読みの「センチ(冊)」に改められました。



丸出山観測所跡



小首堡壘砲台跡の兵舎や弾薬庫となる掩蔽壕息部



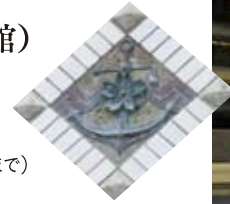
旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館 全景 (佐世保市教育委員会提供)



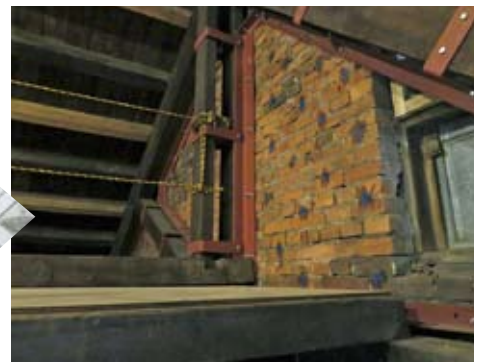
ホール内部 (佐世保市教育委員会提供)

佐世保市民文化ホール (旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)

- 〒 佐世保市平瀬町2
- ☎ 0956-25-8192
- 🕒 9:00～22:00(ただし、施設利用が無い場合は17:00まで)
※天井裏・屋根裏での見学は事前の電話連絡が必要
- 🗓 火曜日、年末年始



壁面には、「海軍大臣旗」に似たデザインの装飾



屋根裏



館内の資料展示コーナー

大正3年(1914)、第一次世界
大戦が勃発し、同年8月には日本も
日英同盟に基づき連合国側として参
戦しました。この時、佐世保鎮守府所
属の艦艇は中国の青島はじめ各地で
対戦国となったドイツ艦艇と戦いま
した。その武勲をたたえるために大正12
年(1923)5月に建設されたのが、
旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館で
す。建設費約8万6000円は、九
州、四国、沖縄等12県からの寄付に
よってまかなわれました。煉瓦と鉄筋
コンクリート造りの2階建てで、幾何

敗戦後は連合国軍に接收されて、
娯楽施設を意味するショーボート
(showboard)の名称で、ダンスホールや映
画館として使用されていました。昭和
52年(1977)に日本へ返還され、昭
和57年(1982)、佐世保市に譲渡
されました。その後、市民の芸術活動
等を行う多目的文化施設である佐世
保市民文化ホールとなりました。

平成9年(1997)には、大正時
代の貴重な建築物として国の有形文
化財に登録されました。

平成25年(2013)から改修工事
のため休館していましたが、平成28年
(2016)4月1日から再開館しま
した。二階には改装工事の際に撤去
保存した部材等を展示しているコー
ナーがあります。見学には許可が必要
な屋根裏では、外からは見られない当
時の煉瓦や梁を見ることができます。



南風崎トンネル南側

九州旅客鉄道(株) 鉄道施設群

翌31年1月には「佐世保駅」が完成し、日本のほぼ西端まで鉄道が開通しました。

佐世保近辺の九州旅客鉄道施設群には、今なお往時を偲ばせる文化遺産が多く遺されています。

南風崎トンネル(全長183.6メートル)は、明治30年(1897)

明治5年(1872)の新橋〜横浜間の開通を皮切りに、日本全国に鉄道が普及していくこととなりました。また日清戦争を契機に、明治政府は軍港のある佐世保まで鉄道を延長することを決定します。

明治28年(1895)に武雄〜早岐間の工事が開始され、明治30年(1897)7月に「早岐駅」が完成、

に完成しました。煉瓦製のアーチが残っています。正面には石柱のようなものが見てとれますが、これは装飾用に設置されたものです。当時の鉄道建設が外観も大事にしていたことがわかります。

また、清水の瀬橋梁は明治30年(1897)に完成しました。鉄道橋としては一般的な形式ですが、煉瓦造り橋脚の石材がアクセントになっています。橋脚上のプレートガーダ(鋼板、鋼材を組み合わせた桁)を定期的に新しくしながら、今も現役で運用されています。



清水の瀬橋梁

明治29年(1896)、松浦炭鉱の石炭を運ぶ鉄道(松浦炭鉱専用鉄道、以下松浦炭坑鉄道、松浦鉄道(株)前身のひとつ)の建設工事が起工されました。工事は小浦(佐々)の方から始まり、レールが敷設され次第機関車を走らせ、現場まで資材を運搬しました。明治31(1898)年6月、世知原〜小浦間が開通し、工事は終了しました。

松浦炭鉱鉄道は最盛期で年産336万トンを誇った北松炭田産の石炭のほか、時には従業員や来客

をも輸送していました。

昭和40年代以降、エネルギー革命が進み石炭の需要が低下。国内の炭鉱は次々と閉山し、昭和47年(1972)に柚木炭鉱が閉鎖したことで佐世保市内の炭鉱はゼロになりました。同地の石炭輸送に特化していた松浦炭鉱鉄道の経営も行き詰まり、昭和46年(1971)12月、廃線となりました。

同じく石炭輸送が主目的の鉄道で、伊万里と佐世保を結び付けていたのが旧伊佐線です。その内、佐世保〜北佐世保間は昭和8年(1933)に起工し、二年後に開通しました。

また、吉井町の吉井川橋梁(昭和19年)、吉田橋梁(昭和14年)、福井川橋梁(昭和17年)は国の登録有形文化財に指定されています。ほぼ等間隔(各500メートルほど)で設けられています。中でも、福井川橋梁は骨組みに鉄ではなく竹を用いた竹筋コンクリート製であったと言



花園町橋梁 昭和初期、佐世保は急激に市街化したため、市内の鉄道の多くが高架線となった



福井川橋梁

吉井川橋梁

花園町橋梁(北側)

吉田橋梁

松浦鉄道(株) 鉄道施設群

松浦鉄道たびら平戸口鉄道博物館

〒 平戸市田平町山内免418-2
☎ 0950-57-0024
(松浦鉄道株式会社たびら平戸口駅)
🕒 9:00~18:00

伝えられています。

松浦鉄道の駅の中でも日本最西端の駅として有名な「たびら平戸口」駅には博物館が併設されています。それが松浦鉄道たびら平戸口駅鉄道博物館です。ここでは、JR松浦線としての最後の先頭車両のヘッドマーク等、同線にまつわる貴重な資料を多数展示しています。また駅舎の外には過去に使われていた踏切警報器や腕木式信号機なども展示しています。



屋外展示の踏切警報器(A型)



JR松浦線最後の車両のヘッドマーク



博物館入口

佐世保鎮守府にゆかりある

食

文化

海軍さんのビーフシチュー

日露戦争時の連合艦隊司令長官として知られる東郷平八郎(1848~1934)は、明治32~33年(1899~1900)に第七代佐世保鎮守府司令長官を務めています。イギリス留学経験(1871~78)のある東郷元帥がビーフシチューを日本に伝えたというストーリーのもと、『海軍割烹術参考書』(明治41年)のレシピに基づき復刻されました。



佐世保バーガー

佐世保は「ハンバーガー伝来の地」とも言われます。昭和25年(1950)ころ、佐世保駐留のアメリカ軍から地元に伝えられたレシピを佐世保流にアレンジしたのが「佐世保バーガー」。佐世保市内では、店ごとに趣向を凝らしたハンバーガーを味わうことができます。

入港ぜんざい

「海軍時代、入港前夜の船の中で、入港のお祝いと乗組員たちの疲れを癒す目的で出されていた」と佐世保でいわれ、復刻された甘味。砂糖を使う「ぜんざい」は、戦前では贅沢品でした。ちなみに日本海軍では、出発前の航空機パイロットに「おしるこ」が提供されていたことが記録に残っています。

平成7年(1995)、舞鶴の「肉じゃが」発祥地宣言を皮切りに、呉の「肉じゃが」、横須賀の「カレーライス」、佐世保の「ビーフシチュー」、そして青森県むつ市大湊の「コロッケ」と、かつて軍港・要港だったまちに海軍由来の料理が次々と登場し、地域ブランドとなっています。

佐世保に海軍ゆかりのグルメが誕生したのは平成13年(2001)。

佐世保市と海上自衛隊佐世保地方総監部が開催した「佐世保海軍料理コンテスト」で「海軍さんのビーフシチュー」と「入港ぜんざい」が看板料理として選ばれたことに始まります。

【参考文献】
 平間洋一・高森直史・齋藤義朗
 『絶品! 海軍グルメ物語』
 (新人物文庫、2010年)



海上自衛隊 佐世保史料館 (セイルタワー)

〒857-0058 佐世保市上町8-1
 0956-22-3040
 9:30~17:00(入場は16:30まで)
 毎月第3木曜日、年末及び年始(12月28日~1月4日)
 無料(団体での来館の際は事前に予約ください)



戦後、昭和20年(1945)に米軍が接収し、将校クラブ(タウンクラブ)

ています。また旧館(佐世保水交社)の八角形装飾屋根も見所です。

佐世保鎮守府をめぐると歴史と文化を深く知る

として使用されていましたが、昭和57年(1982)に日本に返還されました。

展示室では、近代海軍の誕生から日清・日露戦争そして太平洋戦争時代までの日本海軍の貴重な史料が展示されているほか、戦後の海上自衛隊のあゆみ等が紹介され、佐世保地方隊の史料等も展示され

旧海軍資料や伝統産業である三川内焼を中心とした陶磁器資料等をはじめ『佐世保市史』編纂にかかる貴重な資料、そして行政・統計資料から観光資料まで佐世保市に関する資料が配置されています。また佐世保市の郷土作家コーナーにおいては数多くの著名人の作品も並んでいます。図書館内には、佐世保郷土研究所も設置されて研究が進められ、公开发表会の開催、研究紀要「郷土研究」の刊行も行われています。



佐世保鎮守府に関する貴重な資料



三川内焼関係資料も充実しています

佐世保市立図書館 郷土資料室

〒857-0026 佐世保市宮地町3-4
 0956-22-5618
 10:00~18:00
 毎週月曜、毎月第3金曜、祝日(月曜日と重なる場合はその翌日も)、年末年始、図書特別整理期間



写真提供:佐世保市立図書館郷土資料室(3点とも)

佐世保水交社とは、日本海軍将校の親睦・研究団体で、明治31年(1898)に谷郷町から現在の町に移転されました。海軍士官の懇親や外国士官の接待、艦隊乗組士官の宿泊等のための施設として建築された大ホール等を備えた3階建ての洋館造りの建物でした。

日本海軍の遺産を継承する施設として、佐世保水交社跡地に、その建物の一部を修復、新館を増設して平成9年(1997)に開設された史料館。

【特集②】
—日本遺産—

日本磁器の ふるさとと肥前

「百花繚乱のやきもの散歩」

平成28年度(2016)には、長崎県から、もうひとつ日本遺産が認定されました。「日本磁器のふるさと 肥前」とした、長崎県と佐賀県にまたがる窯業圏の物語で、窯跡や生産技術等が構成文化財となっています。

自然豊かな九州北西部の地「肥前」(現長崎県と佐賀県にまたがる

地域)で、陶器生産の技術を活かし

誕生した「日本磁器」。肥前の各産

地では、互いに切磋琢磨しながら、

個性際立つ独自のやきものを製作

していきました。これら磁器(主に

岩石を砕いた粉を用い、高い温度で

焼いた薄手で硬質なやきもの)は日

本各地に流通して人々の暮らしの中

に浸透し、同時にヨーロッパの王侯

貴族らをも魅了しました。

今でも、その技術を受け継ぎ、産

地毎に特色あるやきものが生み出

される「肥前」では、陶石、燃料

「山」、水「川」など窯業を営む条件

が揃った豊かな自然、そして青空に

向かってそびえる窯元の煙突や、い

にしへの窯が残された景観など、自

然の恵みを受容し、やきものを生

み出してきた歴史や文化を体感す

ることが出来ます。それでは、日本

遺産に認定された、四百年以上の

歴史と伝統が培った技と美、景観

を五感で感じることでできる「日本

磁器のふるさと」の魅力ある物語を

ご紹介します。

日本磁器のふるさと

1 肥前の歴史をたどる

「日本磁器」の誕生

肥前での陶器製作

九州北部の佐賀県唐津市では陶器「唐津焼」が作られていました。そこへ「文祿・慶長の役(1592-

1598)」の際に肥前の大名たちが

が連れ帰った朝鮮の陶工たちの技術

が加わり、唐津周辺の伊万里・有田・

武雄(現佐賀県)、三川内・波佐見

(現長崎県)などへと陶器の産地が拡

大していきました。長



中野焼
染付葡萄文皿(梅ヶ谷津宿楽園蔵)

崎県内で
16世紀以
降に陶器
(唐津焼)
を生産し

た窯跡に、葎之本窯跡(佐世保市木原町、長崎県史跡)や中野窯跡(平戸市、長崎県史跡)等があります。

そして元和2年(1616)に朝鮮陶工の一人金ヶ江三兵衛(李参平)が、磁器の材料となる良質の陶石を

有田の泉山磁石場で発見したこと

から、日本の磁器生産が始まったと

されます。当時の日本において、白く

光沢があり、強度のある磁器の生産

は、大きな技術革新であり、特に、そ

の白さは色鮮やかで繊細な模様を

描くことを可能にしました。

百花繚乱の産地形成と

国内外への流通

有田で芽吹いた磁器生産の技術

は、周辺の三川内や波佐見、伊万里、

嬉野でも発展し、これらの産地で

は、互いに技術を競い合い、それぞれ

の産地で特色ある磁器を作るよう

になりました。

磁器発祥の地・有田では、乳白色の素地に余白を生かしつつ繊細な絵付けを施した「柿右衛門様式」など、日本独自の色

絵磁器が誕生しました。

佐賀藩は伊万里に「御用窯」を置き、高いデザイン力と最上級の技術を用いて「鍋島焼」を生み出しました。

平戸藩では、寛永10年(1633)に

針尾島(佐世保市)で磁石場が発見

されると、長葉山窯で初めて磁器の

生産が行われました。慶安3年

(1650)には中野窯(平戸市)の

陶工たちを三川内皿山に移し、御用

窯の体制を強化しました。三川内

は、繊細な彫刻で仕上げた技巧性の

高い透かし彫りや、卵の殻のように

光にかざすと透けて見えるほど薄い

「卵殻手」が作られました。御用窯で

つくられた最高級品は幕府や朝廷へ

献上されました。

一方、巨大な登り窯により大量生

産に成功した波佐見では日用食器

を数多く作り、高価であった磁器を

庶民の器へと変貌させました。そし

て、嬉野では「吉田焼」「志田焼」が作られました。



三川内焼
染付三段重ね透彫紋入香炉
(佐世保市役所蔵)



波佐見焼
染付格子子蠅文碗(通称くらわんか碗)
(波佐見町教育委員会蔵)

2 肥前の窯業が育んだ 景観と暮らし

陶工の里には、400年にわたり受け継がれてきた肥前窯業の歴史や文化が、景観の中になお息づいています。窯業の発展に欠かすことのできない陶石などの原料や、燃料や水を提供してきた美しい山々を背景に、そのふもとには集落が連なり、古窯跡やレンガ造りの煙突などが残っています。

陶郷 中尾山(波佐見町)
波佐見焼の産地として江戸時代初期から現代まで連続と続く窯業集落。レンガ造りの煙突やトンバイ塀などが残る。



肥前波佐見陶磁器窯跡(畑ノ原窯跡)(国史跡)
波佐見で16世紀末から近代にかけて操業した窯跡。大量生産を可能とした世界最大級の巨大な登り窯は江戸時代後期を中心に国内各地に流通し、高価だった磁器の大衆化に大きく貢献した。



数多くの窯元の町屋が連なる有田、山々に囲まれた中に窯元が建ち並ぶ「秘窯の里」伊万里、馬車道などに御用窯の栄華が偲ばれる三川内、山あいに世界最大の登り窯と窯元の家並みが残る波佐見など、17世紀からの歴史を感じることできる見どころがたくさんあります。さらに、旧福幸製陶所



三川内三血山(佐世保市)
17世紀後半から稼働した御用窯の三川内東窯跡、西窯跡は連房式登り窯で、その換業は昭和期まで続いた。その他三川内陶磁器意匠伝習所跡や今由製陶所窯跡などが残る。また、江永血山、木原血山でも民窯で磁器の生産が行われ三川内、江永、木原の三地区の血山は三川内三血山と称される。

(波佐見)など、20世紀の近代窯業の活気を今に伝える建物も数多く見ることが出来ます。

3 次世代へと繋ぐ 誇るべき技術

三川内の磁器製作技術

三川内の平戸藩御用窯で高級品を生産するため培われた技術。現在も三川内の窯元に受け継がれ、様々な製品が生み出されています。磁膚の白の輝きのみならず、刃物等で切り取り細かな装飾を作り出す透かし彫りや、卵殻手(薄胎)は三川内を代表する技法です。このほか、菊花飾細工や捻り細工、置き上げなどの細工技術



三川内の磁器製作技術
卵殻手(薄胎)
撮影/大川裕弘



本窯で焼きものを載せる台。
幾つも重ねて用いるという。
(上:八つばね、下:四つばね)



欧使節の一人、原マルチノの出生の地でもあります。また明治期から大正期にかけて、波佐見町で金が採れており、日露戦争の戦費調達のための「見せ金」的な役割を果たしたという興味深い事実もお聞きすることもできました。博物館完成の暁には、そういった地域の歴史に新しい視点から光をあてる情報発信の拠点になることと、今後はますます中野学芸員の手腕が発揮されることを期待したいと思

柔軟性に富んだ 波佐見焼に魅せられて。

ミュージアムの人々 その1



波佐見町教育委員会
文化財保護係長(学芸員)
中野雄二さん
第1回 長崎県学芸功労賞(学術部門)受賞

ではその史跡の管理・維持にも努められています。

長年、波佐見焼に関わってこられた中野学芸員ですが、その魅力を一言で表すなら柔軟性にあるといいます。庶民向けの磁器を作り続けてきた波佐見焼には「人々が求めているものをつくる」という精神が息づいており、それはいま町を支える若手の陶工たちにも脈々と受け継がれているそうです。

いま波佐見町では、平成30年度をめどに博物館を建設する計画が進んでいるそうです。「波佐見町には今まで地域の歴史を概観する施設がなかったのですが、町の歴史・文化、そして観光の拠点に位置付けたいと思っています」と、中野学芸員は構想を語ってくれました。

いまでこそ陶磁器で有名な波佐見町ですが、実は天正遣



コンテナ3000箱!



失敗のちやわんだらけ

波佐見といえば陶磁器。中野学芸員は20年以上にわたり窯跡を調査し、波佐見焼の歴史と魅力を全国に発信しています。もともと大学での専門は漆器だったそうですが、恩師の導きによって、波佐見焼とかかわるようになり、波佐見町の学芸員として採用されました。そこで最初に取り組んだのは、その規模では世界1位から3位までを独占する登り窯群を国の史跡にすることだったそうです。調査、申請手続きなど大変な苦労があったそうですが、その甲斐あって平成12年に国史跡に指定されました。現在



コンプラ瓶

4 行事、人々との ふれあい

毎年、産地では、礎を築いた陶工たちを大切に祀る陶祖祭など、窯業に

波佐見における日用磁器の生地(素焼き前の器)を成形する技術。江戸時代、波佐見では蹴轆轤による生地の成形技術を高度化させ、磁器の大量生産を可能としました。その技術を背景に、近代以降には鑄込み成形や機械轆轤成形など新たな技術を導入し、肥前における生地生産の中核として発展を遂げました。現在も肥前帯に生地を供給し続け、肥前磁器生産の「裏方」的役割を担っています。

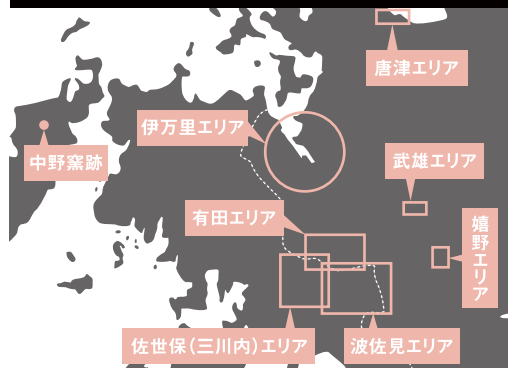
や山水絵技術、唐子を配した図柄の染付技術などさまざまな技術を伝えていきます。

波佐見の生地成形技術

開わる伝統行事が行われ、多くの購買客で賑わう「やきもの市」も開催されています。また、料理を彩り引き立てる器を贅沢に使い客をもてなす文化も育まれています。こうした歴史と文化を体感するため、国内外からたくさん観光客が「肥前」を訪れています。



旧福幸製陶所(波佐見町)
福重家住宅主屋・旧福幸製陶所(波佐見町、国登録有形文化財)
波佐見で磁器を生産した福幸製陶所とその経営者である福重家の建物群で、いずれも昭和初期の築造。建物群の一部がカフェや雑貨店として活用されている。



構成文化財の地図

《各産地で行われるやきもの市》

佐世保市: はまぜん祭り(5月)、みかわち陶器市(10月)
波佐見町: 波佐見陶器まつり(4.5月)、桜陶祭(4月)

ミュージアムの人々 その2

こどもの笑顔のため。
そして未来のため。



佐世保市少年科学館
「星きりり」
久野正明さん
第1回 長崎県学芸功労賞(普及部門)受賞

不足」「根気強さ・集中力の不足」と分析し、「モノづくり大国ニッポン」の危機を憂慮しています。その克服には、基礎基本の定着と実験や体験が重要だと信じ、理科教育の重要性を自らの実践によって訴え続けているのです。今日も大好きな子供たちの笑顔のため、そしてその子供たちが背負う我が国の未来のために久野さんは教材を作り続けています。



していきました。独自のユニークな視点を持つこれらの研究は数々の賞を受賞、久野さんは現在にいたるキャリアを築いてきました。佐世保市内の中学校を校長として退職された後、久野さんは佐世保市少年科学館での「工作ひろば」などの講座を通じて積極的に子供たちに理科の面白さを伝えていっています。最近、公民館活動など地域にも活動の幅を広げ、その熱意は衰えるところを知りません。またこれまでの研究と成果をまとめた本を自費出版し、後進の育成にも力を注いでいます。



教職を辞してなお、ここまで久野さんを駆り立てている原動力は何でしょうか。そのひとつが巷で叫ばれて久しい子供たちの「理科離れ」です。久野さんはその原因を「モノづくりをする力の不足」「発想力(=子供たちに興味を持たせるための仕掛け)の

佐世保市中心部からほど近い、弓張岳のふもとに佐世保市少年科学館があります。2階の体験コーナーでは、理科が大好きになってほしいという子供たちへの思いが込められた久野さん手作りの教材を方々に見ることができます。どれも子供たちの興味をそそるものばかり。これらの教材を前に子供たちが目を輝かせる様子が目に浮かんでくるようです。ここ10年間で久野さんが製作した教材は約50点におよんでいます。

理科教育に情熱を注ぐ久野さんのそのもその出発点は、新任として離島の中学校に理科教師として赴任したことにさかのぼります。そこで科学クラブをたちあげ、子供たちの日常の中から出てきた疑問を取り上げ「しずく(ミルククラウン)の研究」「ところてんの研究」「飛び石の研究」「茶柱の研究」など、子供たちと一緒に疑問を究明

ミュージアム逸品紹介

諫早市美術・歴史館

諫早市美術・歴史館 副館長
川瀬 雄一



重要文化財 エーセルテレカラフ

から技術者を集め、蒸気機関等の研究を行いました。箱書に「中村考」とあることから、元治元(1864)年以前に、精煉方に属していた中村奇輔により考案されたと考えられます。

諫早市美術・歴史館は平成26年(2014)3月に本市初の本格的ミュージアムとして開館しました。今回は当館を代表する資料について、ご紹介いたします。

エーセルテレカラフ

送信機と受信機の2台からなる指字式電信機(寄託資料)。送信機の文字盤を回転させることで、電線をつながれた受信機の指字針が回転して文字を伝える仕組みです。

佐賀藩主鍋島直正が設置した「精煉外方」は、佐野常民が中心となり佐賀藩外

この資料は蘭学の知識を基礎に我が国で改良・製作された、幕末期の国産電信機として現存する唯一の事例であり、我が国における西洋科学技術の受容の在り方を示し、学術的価値が高いことから、平成27年9月、国の重要文化財に指定されました。

肥前長崎の焼物

本市出身で古陶磁研究家として著名であった故植村富士男氏が半生をかけて蒐集された現川焼146点、亀山焼62点、長与焼20点、鵬ヶ崎焼9点、土師野尾焼1点、計238点からなる焼物群

(館所蔵)。本市にとって貴重な資料であることから市の文化財に指定されています。

現川焼は、佐賀藩諫早領現川で元禄4(1699)年に開窯、洗練された独特の刷毛目文様、四季折々の繊細な草花文を描いた温雅で瀟洒な作風、鮑型・舟形など斬新な造形美を特徴とします。

亀山焼は、長崎伊良林で文化4(1807)年に開窯、木下逸雲らによる秀逸な絵付けを特徴とし、呉須染付の発色の良い資料を多く生産しています。

長与焼は、大村藩長与で寛文7(1667)年に開窯、滑らかに融けた釉調や色鮮やかな色調による長与三彩は特に優れた資料です。

鵬ヶ崎焼は、長崎の稲佐山麓で文政6(1823)年に開窯、白象嵌や色釉の盛上げ文様などの独自性を有する資料です。

土師野尾焼は、現在の諫早市土師野尾で旧領主西郷氏時代に開窯(16世紀後半)、最古期の

唐津焼の一群をなすもので、伝世品は少なく、貴重な資料です。

開館4年目を迎える本年、今後も、郷土諫早の歴史・民俗や諫早ゆかりの芸術家の作品を紹介し、諫早の魅力を発信していきたいと考えています。

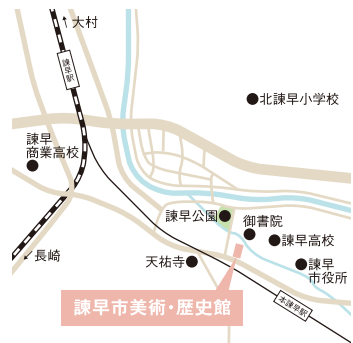
亀山焼 染付唐人龍踊図三段重



現川焼 輪花型木葉絵皿



長与焼 三彩筒型花生



〒854-0014 諫早市東小路町2-33
☎ 0957-24-6611
🕒 10:00~19:00
📅 毎週火曜日(祝日の場合は翌日)
📅 12月29日~1月3日、特別整理期間



〒857-0031 佐世保市保立町12-31
☎ 0956-23-1517
🕒 9:00~17:00
📅 火曜・5月5日を除く祝日、12月29日~1月3日

自慢の体験プログラム

見て、触って、体験！
長崎ペンギン水族館



ペンギンの餌やり体験。展示場の中に入って直接エサをあげることができます。



ペンギンとの散歩の様子。5月中旬～11月中旬まではフンボルトペンギン、11月下旬～5月上旬はキングペンギンが登場します。

本館は平成13年にオープンした体験型水族館です。ここでは地球上に生息する全18種類のペンギンのうち、世界の動物園・水族館の飼育種数では最多の9種類のペンギンに出会うことができます。

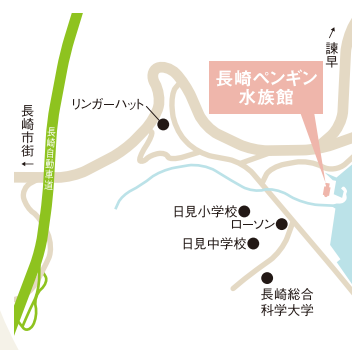
1階フロアにはタッチプールが常設されており、ヒトデやヤドカリ、ウニなど、磯の生きもの達を手にとりて観察することができます。歓声をあげながら、おっかなびっくり生きものにふれている子供たちの姿が印象的でした。その隣には温帯ペンギンの展示場があり、土日祝日限定でペンギンの餌やり体験ができます。展示場に入り、ペンギン達の大好物のアジをバケツから取り出すと、ペンギン達がいつせいに集まってきます。取材当日は子供連れのご家族からカップルまで、幅広い層の方々が、歓声をあげながらペンギンたちとのふれあいを楽しんでいました。また、屋外にはペンギン広場

とペンギンビーチがあり、ペンギン達の行進をながめたり、ペンギン達にさわったりすることができているイベントがわいています。

2階フロアにはバーチャルシアターが常設されており、大型スクリーンに、自分で色を塗ったオリジナルの

とペンギンビーチがあり、ペンギン達の行進をながめたり、ペンギン達にさわったりすることができているイベントがわいています。

2階フロアにはバーチャルシアターが常設されており、大型スクリーンに、自分で色を塗ったオリジナルの



〒851-0121 長崎市宿町3番地16
☎ 095-838-3131
🌐 <http://penguin-aqua.jp/>
🕒 9:00～18:00
🏠 年中無休
👤 大人510(410)円、3才以上～中学生300(240)円 ※ ()内は15名以上の団体料金
🕒 1時間 200円 以後は1時間ごとに100円

ペンギンや魚たちを3D映像として登場させる事ができます。3Dスクリーン専用メガネをかけて観賞すると、海の生き物たちが目の前で迫力満点に泳ぎまわります。メガネをかけた子供たちが、自分のオリジナルの生き物を見つけておはしゃぎしていました。大人から子供まで楽しめる体験プログラムが満載の、まさに体験型の水族館です。



バーチャルシアター。3Dで自分で色を塗ったキャラクターが泳ぎ回ります。

建物探訪

彫刻家・北村西望を育んだ風土を体感

北村西望生誕之家
西望公園・記念館



長崎県名譽県民第1号で、《平和祈念像》(1955年、長崎市平和公園内)が広く知られる彫刻家・北村西望(きたむら/せいぼう、1884-1987)の生家が、西望記念館として公開されています。



《笑う少女》が迎えてくれる展示室

北村西望は、長崎県南高来郡南有馬村白木野字宮ノ木場(現南島原市南有馬町)に生まれ、一時母校の教員となるも、芸術家を志して京都市立美術工芸学校、東京美術学校に進み、日本を代表する彫刻家のひとりとなりました。

公園内や展示室では、北村西望作品が鑑賞できるだけでなく、手先が大変器用だったという父・陳連が制作した六方棺や仏壇も展示されています。それらに付属するレリーフには西望の表現との類似性も見出せます。



有明海が広がる風景。中央には原城跡も見える。(西望公園へ向かう道路より)

築200年の生家は、当初、建坪約150坪、敷地も約2000坪を有していたと言われています。島原半島有数の名家である本家から50丁分の土地とともに分家した庄屋でした。昭和54年(1979)

「たゆまざる歩みおそろし かたつむり」と詠みつつ、102歳の天寿を彫刻制作に捧げた北村西望。普賢岳を仰ぎ、眼下に有明海が広が



〒859-2413 南島原市南有馬町丙393-1
☎ 0957-85-2922
🕒 9:00～17:00
🏠 木曜日、年末年始(12/29-1/3)
👤 一般200(150)円、高校生150(100)円、小中学生100(70)円 ※ ()内は20名以上の団体料金
🕒 14台



父・陳連が制作した六方棺

ながさき歴史・文化 トピックス

News & Topics

平成28年度「長崎の偉人 梅屋庄吉」 読書感想文コンクール

平成28年(2016)11月27日、長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館において、平成28年度「長崎の偉人 梅屋庄吉」読書感想文コンクールの受賞者の表彰式を開催しました。

本コンクールは、中国の革命家・孫文を物心両面で支え続けた長崎出身の実業家・梅屋庄吉の功績を若い世代に伝えることを目的として、県が発行した児童書を課題図書として毎年開催しているものです。

3年目となる今年は、応募総数280点(小学生の部84点、中学生の部196点)の中から、厳正な審査を経て、各部門10名が受賞となりました。

表彰式では、最優秀賞の南有馬小5年・松尾桃花さんと森山中学校2年・張本唯寿さんが作品の朗読を行いました。



小学生の部受賞者



中学生の部受賞者



松尾敏男《長崎旅情》2014年 長崎県美術館蔵

長崎県名誉県民 松尾敏男先生のご逝去について

平成28年(2016)8月4日、文化勲章受章者で長崎県名誉県民である日本画家・松尾敏男先生がお亡くなりになりました(享年90)。

県では、同年11月12日、長崎市平和会館において、「長崎県名誉県民 故 松尾敏男先生を偲ぶ会」を執り行い、多くの県民の皆様のご列席のもと、松尾先生のふるさと長崎の地で先生とのお別れをさせていただきました。偲ぶ会では、実行委員長である中村知事から、「先生のご遺徳を受け継ぎ、郷土の発展のために渾身の努力を傾けることをお誓いします。」との弔辞が述べられました。

《略歴》

| | |
|-------|------------------------------|
| 大正15年 | 3月9日、長崎市今籠町(現鍛冶屋町)に生まれる |
| 昭和4年 | 3歳の時に家族とともに上京 |
| 昭和18年 | 日本画家・堅山南風(かたやまなんふう)に師事 |
| 昭和24年 | 再興第34回院展に《埴輪》が初入選以降、院展を中心に活躍 |
| 平成10年 | 勲三等瑞宝章を受章 |
| 平成12年 | 文化功労者に列せられる |
| 平成24年 | 文化勲章を受章 |
| 平成25年 | 長崎市特別栄誉表彰(4月)、長崎県名誉県民顕彰(10月) |
| 平成28年 | 8月4日、肺炎のため東京都内の病院にて死去(享年90) |

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の 世界文化遺産登録へ向けて再スタート

日本におけるキリスト教の伝播と繁栄、弾圧と250年もの長期にわたる潜伏、そして奇跡の復活というプロセスを示す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、平成28年(2016)の世界文化遺産登録を目指していましたが、国際記念物遺跡会議(イコモス)から「禁教期に焦点をあてて推薦内容を見直す必要がある」と指摘を受け、最短かつ確実な登録を実現するため、一旦ユネスコへの推薦を取り下げました。その後、イコモスの助言を受けながら推薦内容の見直しを行い、構成資産を14から12に見直し、名称も「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に変更しました。

新たな世界遺産としての価値は、「潜伏キリシタンが禁教期に密かに信仰を続け、既存の社会や宗教と共生しながら、独特の文化的伝統を育んだことを物語る貴重な証



野崎島の集落跡(小値賀町) ©日暮雄一

拠」であることです。そのため、構成資産のうち、「教会建築」としていたものは、密かに祈りをささげた場所や墓地などを含む「集落」としました。

今後は平成29年(2017)秋頃に行われるイコモスの現地調査を経て、平成30年(2018)の世界文化遺産登録を目指します。登録実現に向け、所有者や関係市町と一体となって、全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日伊国交樹立150周年記念

「特別公開 新発見! 天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」

平成28年(2016)7月22日から8月31日まで、ヴェネツィア派の画家ドメニコ・ティントレットが描いた油彩画《伊東マンショの肖像》を長崎歴史文化博物館で特別公開しました。

キリシタン大名の名代として、正使 伊東マンショ、千々石ミゲル、副使 原マルチノ、中浦ジュリアンら、1582年に長崎を出発した一行は、長く危険な航海を経て、1584年にスペイン国王フェリペ2世に謁見し、1585年3月には、ローマ教皇グレゴリオ13世への謁見を果たしました。その後一行は北イタリアを回り各地で大歓迎を受けます。そして、同年6月にヴェネツィア共和国を訪れた記念に描かれたのが本作品です。日本のキリシタン研究者の間で、長年捜し求められていた作品で、現所有者であるトリヴルツィオ財団(ミラノ)の調

査によって、伊東マンショの肖像画であることが突き止められました。日伊国交樹立150周年を記念するにふさわしい、日本人とイタリア人との出会いを象徴する作品として、特別に東京、長崎、宮崎で世界初公開されました。



長崎会場では、同年にローマで描かれた和装の《伊東マンショ肖像画》(長崎歴史文化博物館蔵)とともに展示された。

隠元禅師の足跡を辿る黄檗文化交流について

～隠元禅師の故郷と長崎四福寺等との交流～

平成27年(2015)5月に中国の人民大会堂で開かれた日中友好交流大会において、習近平主席による隠元禅師東渡(来日)の物語についての講話がなされて以来、中国全土で隠元禅師の功績を顕彰する動きが本格化しています。同年11月には中村知事も、福建省福清市にある隠元禅師ゆかりの黄檗総本山万福寺を視察しました。

平成28年(2016)は本県においても、中国との黄檗文化交流が盛んに行われた年でありました。1月には隠元禅師の「初登宝地」である興福寺の松尾法道住職を団長



クルーズ船で来県

とする「隠元禅師の中国での足跡を訪ねる」訪問団が万福寺などを視察し交流を行いました。5月には福清黄檗文化促進会の林文清会長をはじめとする8名が来県し、8月にはクルーズ船にて福清市の南少林寺の広智法師

(福清市仏教協会常務副会長)を団長とする70名の黄檗文化交流団が隠元禅師東渡362年を記念し来県しました。興福寺において九州の黄檗宗禅寺関係者との意見交換会が行われました。また、11月には一般社団法人黄檗文化促進会(千葉県)の陳理事長ら一行14名が本県を訪れ、長崎の四福寺等を視察し交流を深めました。

来年度以降も隠元禅師の顕彰を通じて福建省などとの文化交流事業を積極的に行う予定です。



黄檗文化交流団の長崎訪問(興福寺の本堂にて)